

新井宿駅と地域まちづくり協議会

歴史部の目的

伊奈氏研究においては、専門家による研究でほぼ明らかになっている。それによると、伊奈氏の業績が仰ぎ見るものだというのは、まぎれもない事実で、関東に住む者ならなにがしかの恩恵を受けているはずです。しかし、川口市民がこのことに関心があるかと言うと、残念ながら、ない、と言わざるを得ません。

これにはさまざま理由があると思いますが

“むずかしい” と言うことが大きいのではないかと思います。当歴史部会は伊奈氏が住んだ土地の者として、これをわかりやすく伝えることを活動の柱の一つにしています。

具体的には

1、フィールドワーク (現地調査)



- 2、現地調査・研究成果のホームページでの発表。**
- 3、歴史講座の開催**



4、小冊子の発行



5、歴史バスツアーの開催









*ちなみに神根の歴史やお女郎さんの謎についても研究していて、当会広報誌にて連載しています。

～今日のテーマ～

「地元なら知つておき
たい関東郡代伊奈氏の
10の事」

① 代官って何？

將軍

|

老中（内閣）

|

勘定奉行（財務省、国土交通省他）

|

代官・郡代（税務署・県庁・警察署）

*代官は將軍に代って領地を支配する役人。

悪代官はいたのか？

代官は手付（御家人）、手代（農民）を含めて部下が20人ぐらいしかおらず、それでいて5～10万石（川口市は2万石）を支配していたので、激務で不正を働く暇がなかった。もし働いたり、能力がなかつたりするとすぐに首になった。

伊奈氏は代官？郡代？

* 郡代は散らばっている天領を支配する代官のことで、10～20万石を支配していた。しかし代官と変わることろはない。伊奈氏は支配地域が最も広い（30万石）ので一般的にそういわれていただけ。

② 伊奈家の始まりは？

清和源氏の流れ。信州伊那郡の出。初代忠次の祖父は三河国小島で徳川家康の父（松平広忠）に仕えた。

③ 初代忠次の活躍



400年の首都を決めた人

忠次は家康に2度背いたが、本能寺の変の時に家康と一緒に伊賀越えしたことにより帰参を許される。内政面でのたぐいまれな手腕を発揮。家康に関東への国替えをするように進言する。*八朔（8月1日）のお討ち入り。

関東代官頭

家康が関東入府後任命した4人の代官の頭。
大久保長安、長谷川長綱、彦坂元正、伊奈忠次。
家康の霸業を支えるため富国に努めた。
あらゆることをこなした万能的な代官。

内政面で幕府の基礎をつくる

検地の仕法を確立する。* 6尺1分四方が一歩。
知行割、寺社の懷柔、自治村の形成、新

田開発、産業の振興、治水思想の確立。など、幕府初期の秩序と財政基盤を作る。

* 結城紘は忠次が再興させた。

* 利根川東遷に着手する。

* 氷川神社の造営。

「関八州は忠次によって富む」と言われ、百姓からは神仏に様に敬われた。



大宮氷川神社

④ 利根川東遷って何？

利根川の流れを変えて治水と水田開発と水運という3つの課題を克服した江戸時代最大の工事。完成まで60年、伊奈家3代に渡る大事業。結果、武蔵国東部低地と江戸は水害を免れ、石高は倍増。巨大な水運網は百万都市江戸を支えた。

* 東部低地、利根川東遷概略図、中条堤

⑤ 宝永噴火と伊奈半左衛門忠順



須走伊奈神社の忠順像

宝永4年（1707年）11月23日、富士山は大噴火し、東麓の御厨地方は降砂による甚大な被害を受けました。焼けた砂は深い所で1丈（3m）。家屋、田畠、山河もすべて砂で埋まり、人々は生きるすべを奪われてしまいました。検分に来た役人は「何処へなりと縁を頼ってここを去るべし」と言い、幕府はこの地方を亡所として救済を放棄しました。

のみならず、全国から集めた義捐金のほとんどを流用してしまい、被災地に付けようとはしませんでした。このすさまじく絶望的な状況で必死の救済に当たったのが、関東郡代伊奈半左衛門忠順でした。その後復興は長い時間要しましたが、彼の地の人々は当時の恩を今でも忘れずに忠順を篤く敬っています。



宝永噴火口(1707年噴火)



宝永スコリアの地層

⑥ 中山道伝馬騒動

明和元年（1764年）12月。高年貢、度重なる臨時税にあえいでいた中山道沿いの百姓たちは、幕府の助郷村拡大の決定に激発する。老中へ決定阻止の直訴を目指して深谷宿に集った百姓たちは中山道を南下する。その数20万人。江戸時代最大の一揆になりました。

一揆勢は説得に来た幕府役人に耳を貸さず桶川宿に到達する。事ここに至って幕府は関東で絶大な影響力を持つ伊奈家に一揆鎮静を命じる。

関東郡代伊奈忠宥は部下を桶川に向かわせると、一揆勢の要求を認めることを伝えた。誰にも耳を貸さなかつた百姓たちは、「伊奈様がおっしゃるならば」と村々へと引き上げてい

った。

収まりの付かない一部の百姓は暴徒と化したが、これも鎮圧され、江戸期最大の一揆は速やかに収束を見た。この騒動は百姓たちの要求に屈した幕府の権威の失墜と、関東における伊奈家の名声と実力を見せつける結果となつた。



獄門に処された一揆の首謀者遠藤兵内の供養塔（美里町）

⑦ 失脚の通説

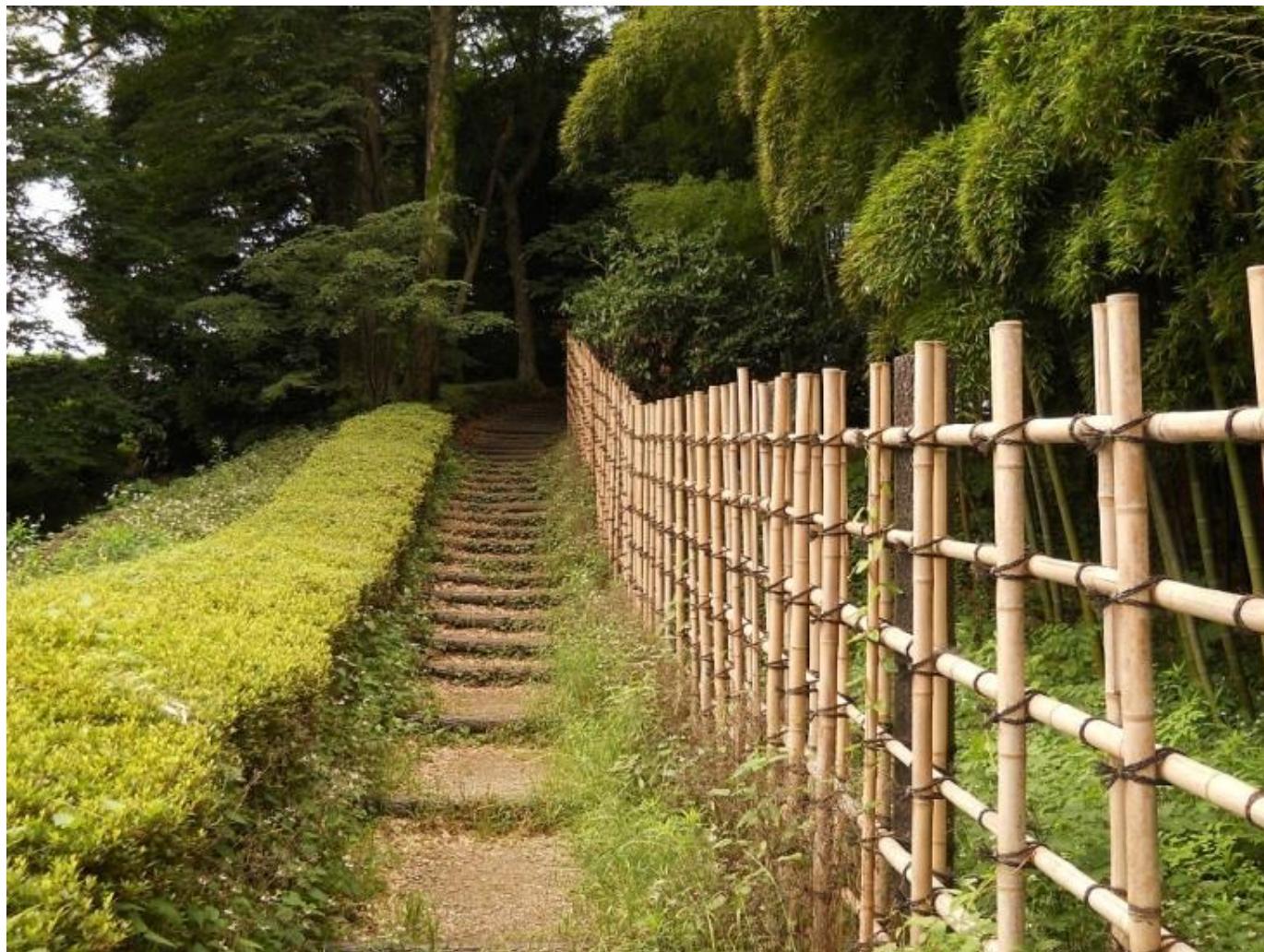
- 1、伊奈忠尊の傲慢、不行跡。
 - 2、借金問題。
 - 3、幕閣との軋轢。
 - 4、家臣団との対立。
 - 5、重臣処分に寄る機能不全。
 - 6、養子忠善（前当主の子）の出奔。
- これらすべて忠尊の性格に起因する。

⑧ 赤山領と赤山陣屋

赤山領は忠次の次男忠治が 1618 年に拝領した領地。7 千石だが実際は伊奈氏自ら荒野を拓き結果的に 7 千石になった。(赤山領石高)

忠治以後は兄弟に分地し、代々 4 千石を相続する。この他に 22,000 石の特権があり、実質大名並みの収入があった。しかし、後期はあまりにも業務繁多で家計は苦しかった。

赤山陣屋は忠治がつくった代官所。赤山役所と呼ばれていた。初期は関東開発の重要な拠点として、その後は代官支配地と馬喰町の郡代役所を繋ぐ中継点として機能した。



赤山陣屋跡西堀

⑨ のらぼう菜って何？



野良坊菜は伊奈家第10代当主、第8代関東郡代伊奈忠宥（ただおき）が明和4年（1767年）にオランダからジャワを経由して天領の農民に種を配り、栽培を指南・奨励をしたのが始まりで、主に多摩地方や比企郡などで生産されています。

当初は闇婆菜（ジャバ菜）といったが、どこでも元気に育つので“野良生え”と呼ばれ、

変化して野良坊になつたそうです。食糧不足の春先の端境期にたくさん取れるので、天明・天保の飢饉の際領民を救つたと東京の五日市に石碑があります。比企郡ときがわ町の民家から忠宥の栽培指南書が見つかり、これが比企郡のらぼう菜の特産化のきっかけになりました。言い伝えによると幕府役人はのらぼうを年貢の対象とはしなかつたと言います。

⑩ 伊奈家の矜持

幕府は元禄のころには財政難になっていて、その解決のために徳川吉宗が享保の改革を行いました。その基本は米の増産と税率のアップでした。以後幕府は延々と高率の年貢を課しつづけ、一揆が頻発するなど社会不安を招くようになりました。勘定奉行神尾春央は「百姓と胡麻の油は搾れば絞るほど取れる」と言

っていたそうです。



8代將軍徳川吉宗

この方針のもと、代官たちは高率の定免を百姓たちに押し付け、強引に年貢を取り立てるようになりました。一方伊奈氏は方針に従いつつも水損や旱損に対して年貢の引き下げを行うなど柔軟に対応していた。これを他の代官たちは「伊奈はぬるい」と批判していた。

安永5年（1776）のある日。伊奈氏と同じ世襲代官の江川太郎左衛門は伊奈忠敬と

宿直で同席したとき、忠敬からこう言われた
という。

忠敬は幕府の強引な年貢徵収を批判した後、
「およそ百姓は国の基と言えり。民百姓豊か
なれば、たとえ（年貢を）皆済（完納）せぬ
としても、まさかの時は皆、君（徳川家）の御
物なり。村の困窮に及びたる所ありて皆済（完
納）ならずば、ならぬままにしておき、ずい

ぶん憐みをたれたまえ。もし不吟味（職務怠慢）とて御咎（処分）をこうむらばこうむりたまえ。少しも恥辱にはなりまし。（少しも恥ではない）」

伊奈家が200年この矜持（プライド）を貫いたことは真に稀有なことであり、伊奈家支配の農民にとっては幸運なことでした。「ひたすら半左衛門を恋しがり」という風潮はこ

うして作られていきました。この矜持は徳川家康が関東の土地、民に対する考え方だとも忠敬は語っているので、伊奈家は代々家康との約束を頑なに守っていたとも言えます。

しかしこの伊奈家の姿勢は財政難の幕府にとっては目の上の瘤でしかなく、早晚伊奈家が潰されることは免れなかつたと思われます。